

2022年度 法科大学院

第2期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

貸主Xが借主Yに対し、消費貸借に基づき元本1000万円の貸金返還を求める訴えを提起したところ、XY間において、Xが1000万円の債権を800万円に減額し、Yが和解成立の日の翌日から7日以内に800万円中600万円を支払い、翌月末日に残金200万円を支払う内容で訴訟上の和解が成立した。その後、Yは、初回の600万円を約定期限に支払わなかった。

Xは、和解を解除して、旧訴の審理続行を求めて裁判所に期日の指定を申立てることができるかについて検討しなさい。

[刑事訴訟法]

被告人甲は、盗品の時計を買い受けた罪で起訴された。証拠として「名前の知らない者から、安い時計があると言われて、盗品と思ったが買った」旨の甲の自白調書のほか、その時計についての盗難被害届がある。

この場合、甲を有罪とすることができるか。下記の〔 〕内の用語をすべて使用して説明しなさい。なお、関係する憲法及び刑事訴訟法の規定を必ず摘示しなさい。

〔自白、補強証拠、補強法則、自由心証主義、補強の範囲、甲が犯人であること、主観的要素〕